

令和6年度 幼稚園経営方針

伊賀市立桃青の丘幼稚園

1. 経営方針

～幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を手掛かりとして～

(1) 幼児の主体的な「遊び」を中心に、生涯にわたる人間形成の基礎を培う教育を行います。

- ・幼児が興味や関心をもって主体的に身近な環境に関わり、多様な活動を経験することによって、幼児の好奇心や探究心を養い、生涯にわたる学びの基礎を培うようにします。
- ・幼児にとって重要な「学習」である「遊び」での指導を中心として、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにします。
- ・幼児一人一人を深く見つめ、その特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うように努めます。
- ・幼児の自発的行動を認めながらそれぞれの自己肯定感を高め、他者との関わりによって生まれる自己有用感をもち、さらには自分の目的を達成しようとする挑戦心をもって自己実現できる幼児を育てます。

(2) 教育環境の創造と充実に努めます。～環境を通して行う教育～

- ・自己肯定感、自己有用感を育むことができるよう人的・物的環境を充実させ、協同する態度や規範意識の芽生えを培い、発達に必要な体験を獲得できるように努めます。
- ・幼児の思いに寄り添い共感しながらその発達を助長していけるよう、常に自らの実践を振り返り磨きあえる教師集団として、その資質向上に努めます。

(3) 家庭や地域社会との連携協力を図り、地域ぐるみで幼稚園教育の充実に努めます。

- ・幼児や保護者の願いを把握し、保護者とともに協力し学び合いながら幼児の望ましい育成に努めます。
- ・それを実現するために、保護者の子育ての様々な悩みを本音で話し合うために特化した時間を設けます。
- ・地域との様々な交流を通して、園生活を豊かなものにします。

2. 教育目標

多様な主体性を育み、自己実現できる子どもを育てる

3. めざす子ども像

- ・主体性をもち「遊び・生活・活動」を進めていく子ども
- ・対話を通して学びを深め豊かな心をもつ子ども
- ・自分の目標をもち自己実現する子ども

4. 努力目標

(1) 幼児の自己肯定感を育み、人への愛情や信頼感を育てます。

- ・幼児が安心して園生活を送れるように一人一人に対応し決め細やかに配慮します。
- ・幼児が自分自身に自信をもち、自己肯定感や自己有用感をもてるよう、幼児の気持ちをきめ細かく見つめ、行動の奥にある思いを深く捉え、一人一人の幼児の心に寄り添った関わりに努めます。

(2) 幼児の基本的生活習慣の確立と体づくりに努めます。

- ・身支度・排泄など身の回りのことを自分でする、健康な身体を意識する、好き嫌いなく食べる、危険回避する力をつける、しっかりと話を聴く、など基本的な生活習慣の確立に努め、健全な心身の基礎を培います。
- ・基本的生活習慣の確立について、家庭と丁寧に連携して取り組みます。

(3) 自立と協同の態度や道徳性の芽生えを培い、人と関わる力を育てます。

- ・幼児がまわりの幼児との関わりを通して、自分の思いを表現したり、自分とは違ういろいろな思いがあることに気づいたりするように支援します。
- ・幼児が自分の言動が相手をどのような気持ちにさせたのか意識できるよう、園生活の中で幼児とともに振り返りながら道徳性の芽生えを培うようにします。
- ・様々な葛藤体験も含めて、友達とともに目標に向かって取り組む「協同体験」ができるように支援します。
- ・幼児が自ら考え、主体性をもって行動できるように支援します。
- ・様々な人との関わりを通して、まわりの人への信頼感を深め、人と関わるのが好きになるように支援します。

(4) 直接体験を通して学ぶことの楽しさを実感したり、豊かな感性を育んだりします。

- ・自然との関わりや感動を伴う直接体験をとおして、豊かな感性を育み、知的好奇心や探究心の芽生えを培い、生涯にわたる「学びの基礎」を培います。
- ・身近な動植物に接し大切にする中で動植物への関心や愛情を深めたり、意図的に動物とふれあう機会をつくったりしながら生命を尊重する態度を育てます。
- ・栽培活動を充実させ、その中で多様な経験を積み、生きた体験の中から生きる力の基礎を育みます。それらの経験から食育活動につなげ、生命をいただく意義について考えていけるように取り組みます。

(5) 保護者の子育て力向上をめざした「子育て支援」に努めます。

- ・幼稚園教育のねらいを保護者にわかりやすく伝えるようにし、信頼感を得て、保護者とともに望ましい幼児の育成に努めます。
- ・保護者の願いを受け止め、保護者が喜びと自信、夢をもって子育てできるような「子育て支援」をして、『子どもと親の育ちの場』としての幼稚園の役割を充実させるように努めます。
- ・参観時の託児を実施し、子どもと向き合う時間の保障をしながら保護者の負担軽減に特化した支援を行います。
- ・放課後子育て支援事業として、安全な環境を整備して15時までの「なかよしひろば」の提供を行います。
- ・教師の配置を考慮し、18時までの預かり保育を実施して、子育て支援事業を行います。
- ・週3回の弁当給食、月1回のパン給食の保障を行います。

(6) 教師の資質向上に努めます。

- ・幼児の年齢や生活経験に即し、調和のとれた指導計画を作成するとともに常に指導の経過を省察し、自己評価しながら指導内容・指導方法等の改善充実に努めます。
- ・人権・同和教育を積極的に推進すると共に、特別な支援が必要な幼児や外国籍の幼児についての理解を深め、実態に即した適切な指導に努めます。
- ・専門職としての自覚と誇りを持ち、その力量を高めるため、進んで研修に努め愛情と責任と自信をもって教育にあたります。
- ・公開保育、研究保育、幼児教育アドバイザーの指導や研修を重ねて教育力を高められるように努め、教育指導主事との連携を図りながら教師の資質向上を目指します。
- ・事例検討を行い、SPDCA サイクルを理解して一人一人の教師が確立を図ります。

(7) 幼稚園を保護者や地域に開かれたものとし、公立幼稚園のもつ特色を発信し、理解を得るように努めます。

- ・保護者や地域へ積極的に情報発信を行い、信頼関係が深まるように努めます。
- ・幼稚園評価等による保護者や地域の声を真摯に受け止め、幼稚園教育の充実を図ります。
- ・地域の人々、小・中学生や高齢者との交流機会をできる範囲で設定し、幼稚園教育で大切にしていることを実感してもらえるように努めます。
- ・未就園児の集い「さくらっこ」の計画をし、未就園児が遊んだり、多様な経験ができたりする機会を作ります。また、集いをきっかけにして、地域の人と在園児の交流を図りながら、公立幼稚園のきめ細やかな教育を知ってもらう機会をつくります。

(8) 働きやすい職場の環境づくりに努めます。

- ・全教職員で教育課題を共有し、信頼感をもってかかわり、互いに協力し合える関係をつくり、チームで教育に取り組みます。
- ・週1回の定時退勤および時間外勤務の縮減、休憩時間の確保に取り組み、教師が心身ともに健康に教育できるように努めます。
- ・職員一人一人の悩みなどを傾聴する時間をつくり、教師が心身ともに健康で自信をもつてのびのびと教育に携われるように支援します。

5. 特色ある幼稚園教育

(1) テーマ 「幼稚園での生活や遊びを通して自己実現できる幼児を育てる」

(2) 方策

【幼児の主体性を育む】

- 自分から進んでしたいことを見つけたり、目標をもったりできるように物的・人的環境を整えます。
- 幼児が安心感をもって園生活を送れるよう、幼児一人一人をきめ細かく見つめ、自信がもてるようにかかわります。
- 幼児が自己実現できるための教師の援助について SPDCA サイクルを確立しながら、主体性を育む教育について学びを深めていきます。
- 幼児の遊びに着目し、分析しながら次の目標に向かって計画を立て、一人一人の主体性を育ていけるように努めます。

【コミュニケーション力を育む】

- さまざまな人とかかわりや多様な体験を通して、幼児の人とかかわる力や心身ともに豊かな人間性を培います。
- 様々な領域で、外部講師を招いた体験の充実を図ります。
- 様々な挨拶の表現方法を知ったり、手話を取り入れたりして人とかかわる方法を学びながら挨拶をする習慣を身につけます。
- 園生活の中で絵本にふれたり、親子で読んだりする機会を増やし、絵本に触れる経験を充実させ、豊かな言語活動につなげられるように努めます。

【生きた体験の中から、学びの基礎を培う】

- 幼稚園での人や環境とのさまざまな関わりの中での直接体験（野菜栽培や小動物の飼育、収穫した野菜の調理や食事会、季節探しの散歩など）によって、豊かな感性を培い、知的好奇心や探究心を育てます。
- 一人一人の幼児の思いを実現していく環境づくりをします。

【小学校との連携に努める】

- 小学校の教師と連携し、園児・児童が交流する機会をもちます。
- アプローチカリキュラムに基づき、小学校へのなめらかな接続を目指します。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」（健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然とかかわり・生命尊重、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）につながるよう、3歳児、4歳児、5歳児と指導を積み重ねていきます。

【保護者への啓発を行う】

- 幼稚園だよりや学年だより・ホームページ・写真掲示などを通して、幼稚園での子どもの様子や保育のねらい、そして幼児期における「学習」は「遊び」であることを伝え、園と家庭の連携を推進します。
- 生活表の活用や意図的な取り組みを進め、分析結果を伝えながら、幼児の基本的な生活習慣の確立に向けて啓発します。
- 保護者や教職員が気軽に話し合える関係づくりに努めます。
- 講演会や参観日、保護者会とのつながりを深めながら啓発を行います。